

6月の技術対策（水稻）

平成19年6月1日
J A きたそらち・J A 北いぶき
空知農業改良普及センター北空知支所

1 分げつ期の管理

(1) 移植後の水管理

移植後は、初期茎数の確保と生育を促進させる水管理が大切です。
週間天気予報などに注意し、適切な水深を確保しましょう。

表1 分げつ期間の水管理の注意点

時 期	目標水温	水 深	水管理の注意事項
活着期～ 分げつ期間	23℃ (昼間 30℃ 以上、 夜間 15℃)	○通常:普通水 3～5 cm ○低温・強風・晩霜が予想 される時:深水 6～8 cm (最上位展開葉の付け根まで)	○止水管理をする。 ○かんがいは夜間～早朝に行う。 ○水深 10cm は分げつが抑制される ○初期生育不良の場合:浅水2～3cm

(2) 過剰分げつ発生を抑制し、登熟性を高めましょう

「きらら397」で、初期生育が旺盛なところは過剰分げつの恐れがあります。
生育状況を的確に把握し、表2の本数を超えた場合は、10cm 程度の深水管理で分
げつの発生を抑制しましょう。

表2 過剰分げつの目安（きらら397）

栽植密度		株間 (cm)	6月15日	6月20日	6月25日	6月30日
(株/m ²)	株/坪		300本/m ²	400本/m ²	575本/m ²	750本/m ²
27.5	91	11	11本/株	15本/株	21本/株	28本/株
25.3	84	12	12	16	23	30
23.3	77	13	13	18	25	33
21.6	71	14	14	19	27	35

(3) 激しいワキ（土壌還元）対策に中干しと溝切りを！

透排水性不良田や稲わらがすき込まれた水田は、地温の上昇とともにワキが発生し
やすくなります。ワキの発生は根をいため、生育を停滞させます。

ワキの発生が激しい場合は、最低気温が 14℃以上で好天が見込まれる時に中干し
を実施しましょう(3～5日以内)。さらに、溝切りを併せて行うと効果的です。

中干しは、幼穂形成期までに終わらせましょう。

表3 ワキの発生程度と対策

ワキの発生程度	根の症状	対策
水田内に踏み込むと 気泡の発生が多い	根の活力低下	水の入れ換え 暗きょ水こうの開放
水田内に踏み込むと 盛んに気泡が発生する	根の張りが不良	暗きょ水こうの開放 一時落水
晴天時、自然に気泡が発生、音が聞こえる 水田内を歩くと著しく気泡が発生する 悪臭が発生	根の伸長阻害	幼形期前の数日、軽く びびが入る程度の中干し

2 前歴期間の水管理

不稔の多発は、減収するだけでなく、蛋白含有率を高めます。
不稔を防止するには、幼穂形成期から約 20 日間の水管理が重要なポイントとなります。
幼穂形成期後 10 日間は前歴期間で、花粉の数が決まる大切な時期です。
必ず深水管理を行いましょう。

(1) 幼穂の確認方法

平均的な生育の稲の主茎を根元から切り取り、その主茎の基部をカミソリで縦切りにし、確認します。幼穂長が 2mm に達した時を幼穂形成期とします。幼穂形成期の観察は、6 月 20 日過ぎから行う必要があります。

参考 幼穂形成期	きらら 397	深川 6 月 27 日	沼田 7 月 2 日
支所 平年	ほしのゆめ	深川 6 月 24 日	沼田 6 月 29 日



図 1 幼形期の見分け方

(2) 前歴期間の水管理のポイント

目標水温	水深	水管理の注意事項
25℃ (21℃以上は確保する)	前歴期間の終わりには 10cm 程度 (1 回当たり 2～3cm を目安に水深を増加)	○急激な深水は水温が低下し保温効果が劣る ○畦畔にゆるみや漏水がないか確認する

3 初期発生害虫の防除

発生予察を徹底し、要防除水準に達したら、速やかに防除を行い、防除効果を高めましょう。

表 4 病虫害の被害許容水準

害虫名	病虫害発生予察情報 (5 月予報)	被害許容水準
イネドロオイムシ	発生期：やや早～並、発生量：並	株当たり 2 卵塊
イネミズゾウムシ	発生期：やや早～並、発生量：やや少	株当たり成虫 0.5 頭

4 葉いもち病の予防薬剤散布

昨年いもち病が発生したほ場や発生しやすい場所（茎数過多、葉色が濃い、風のたまる場所など）を中心に、初発を見落とさぬようしっかり観察しましょう。

例年いもち病が発生しやすい水田では、水面施用剤の使用も検討しましょう。

表 5 いもち病予防薬剤（水面施用剤）

散布時期	注意事項	薬剤例
葉いもち病の初発 7～10 日前(6 月下旬)	水面施用後 4～5 日間は 水深 5cm 程度の止水とする	オリゼメート コラトップ

各地域、各生産組合で使用農薬を指定している場合は、これに従ってください。

5 ドリフト(飛散)軽減対策

農薬の散布の際は、周辺の作物に十分気を配りドリフト防止に努めましょう。

(1) 粉剤散布は特にドリフトに注意しましょう

- ・必ず粉剤 D L を用いる。
- ・微風でもドリフトするので、風のない時に散布する。
- ・風を利用した流し散布は絶対に行わない。
- ・ドリフトを回避するため、朝露のある時間帯に散布する。
- ・パイプダスタの使用に当たっては、長いホースの使用は避け、風のない時に散布する。

(2) 液剤散布は風の弱い時に風向きに注意して！

風の弱い（風速 3m/秒以下）早朝か夕方に散布しましょう。

また、注意を要する方向に強めの風が出始めたら、散布を中断します。

表 6 風力の判断目安

風力	地上 10m の風速(m/秒)	陸上の状態
0	0. 0～0. 2	静穏、煙はまっすぐに昇る。
1	0. 3～1. 5	風向きは煙がなびくのでわかる。
2	1. 6～3. 3	顔に風を感じる。木の葉が動く。
3	3. 4～5. 4	木の葉や細い枝が絶えず動く。
4	5. 5～7. 9	砂ほこりが立ち、紙片が舞い上がる。小枝が動く。